

令和3年度 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)
「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」

すべての子どもの社会的孤立 ・孤独・排除を予防する 学校を中心としたシステムの開発

大阪府立大学 スクールソーシャルワーク評価支援研究所 所長
人間社会システム科学研究科 教授
山野則子

E-mail: eb-ssw@sw.osakafu-u.ac.jp
<http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>



新型コロナウイルス感染症による子どもの孤立問題の深刻化

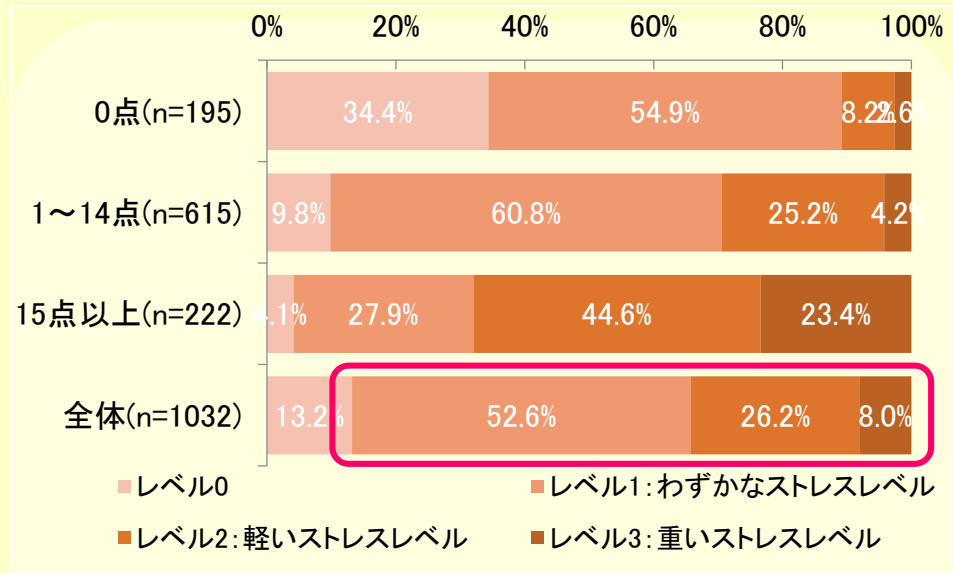


図1.親の精神的健康状態別に見た、子どものストレスレベル

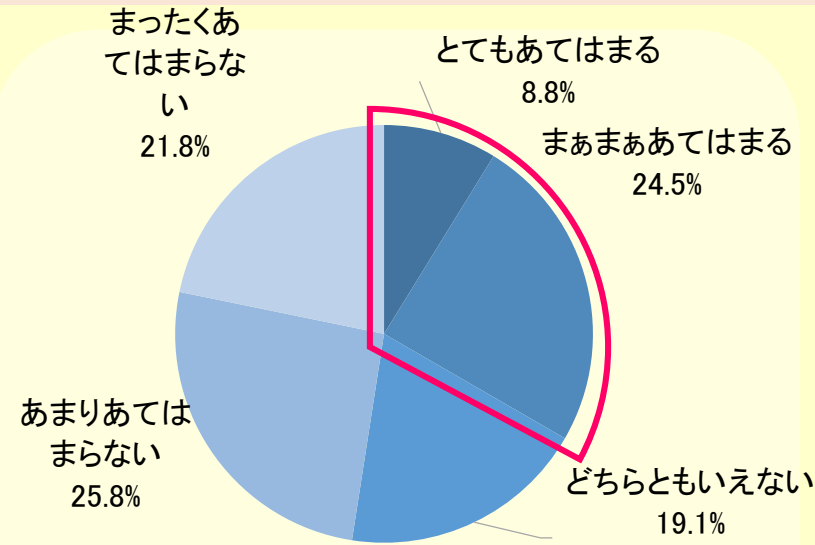


図2.学校再開後の通学への気持ち: づらいと回答した「とてもあてはまる」と「まあまああてはまる」の合計

- ストレスを抱えている子ども = **86.8%**
- 特に保護者の精神的健康状態が良くないほど、子どものストレスレベルは高い
- 学校への行きづらさを感じている子ども = **約3分の1**

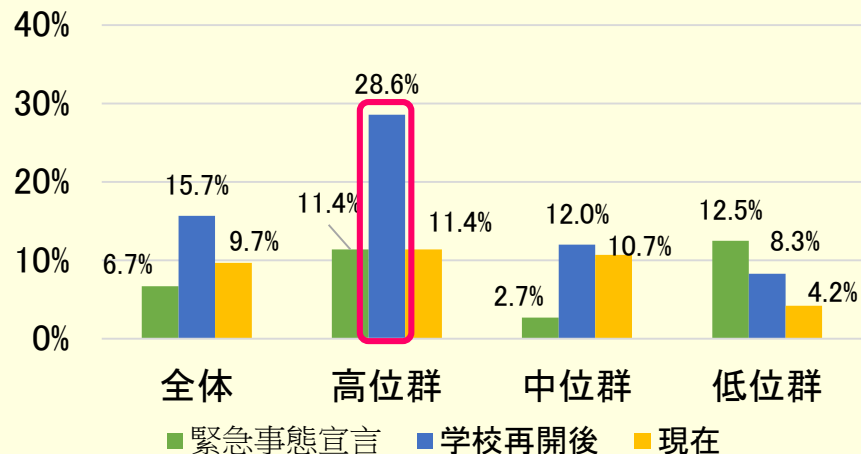


図3.児童の性的な問題: 「増えた」「少し増えた」の合計(感染状況別)

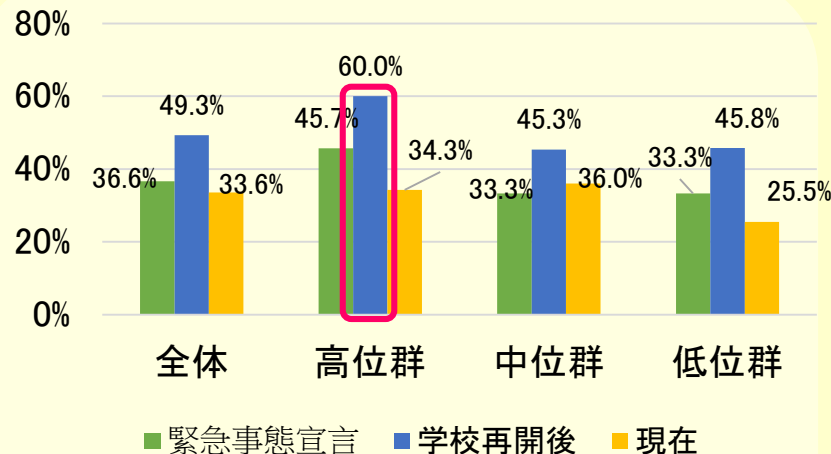


図4.児童のゲーム依存に関する相談: 「増えた」「少し増えた」の合計(感染状況別)

- 児童の**ゲーム依存**や**性的な問題** = 顕著に増加
 - 特に**感染拡大高位群**における学校再開後(2020年6~9月)の増加が著しい
- **学校再開後**に子どもの実態が**顕在化**した

解決すべき社会的孤立・孤独の予防に係る 具体的な問題とその原因

課題1 子どもが声をあげられず 周囲が気づかない

課題2 学校組織が 教師の抱え込み を生む

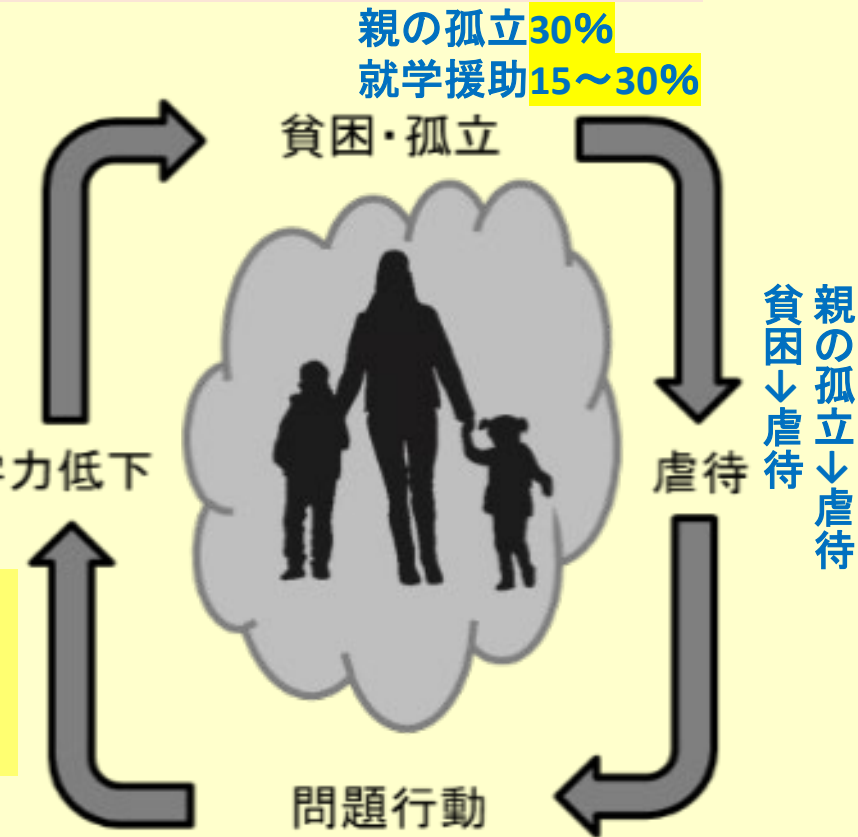
課題3 身近な支援が認識されず
必要な子どもに届かない

コロナの影響調査の回答
(2020年度厚労科研)
約30%: 学校行きづらい
約87%: ストレスがある

学校組織に子どもの問題を発見し
支援につなぐ機能する仕組みが必要 = **スクリーニング**※

※ **全員の子どもたち**を確認していくことで、**気になる30%**の子どもを洗い出し
適切な対応を簡単に行えるようにすること。

キーワードは「集団を対象」「すばやく実施可能な方法」「無自覚な対象」「暫定的に識別」「早期発見」「簡便であること」



なぜ学校なのか

全数把握の保健部門と同様に
学校は**すべての子ども**を把握できる

米国:SSWによる適応行動スクリーニング※

学校組織の課題

毎日、具のない
素麺食べている

家庭の問題だから…

児童相談所、これく
らいでは動かない…

教師、気になりながら蓋をせざる得ない
★意識ではなく学校組織(文化)の課題

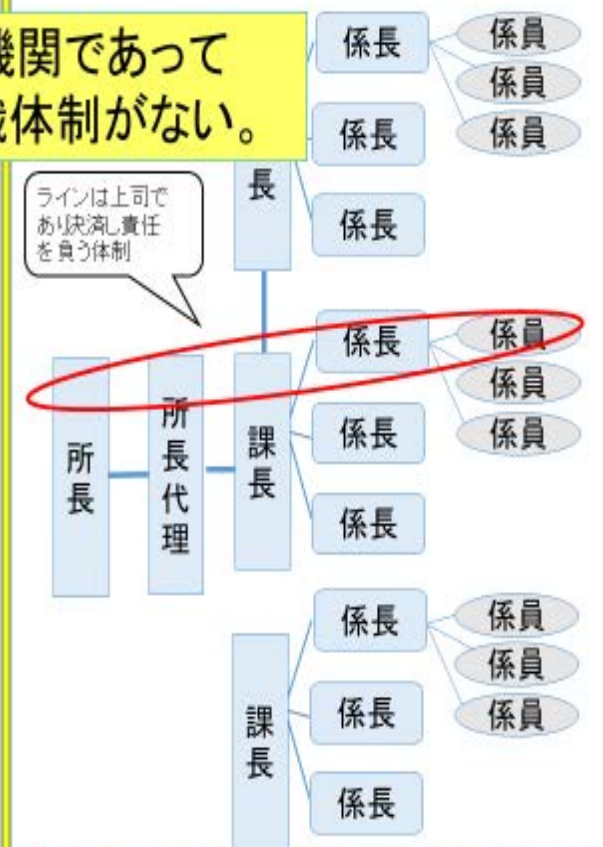
ボトルネック

★個人情報情報の壁 ★対応してきた経緯

学校の組織体制 (小学校)



児童相談所等ほか一般の組織体系



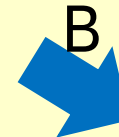
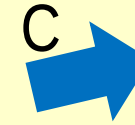
山野則子(2017)中教審提示資料

学校版スクリーニングの進め方

必要に応じて福祉版シートの未就学児のデータから申し送り



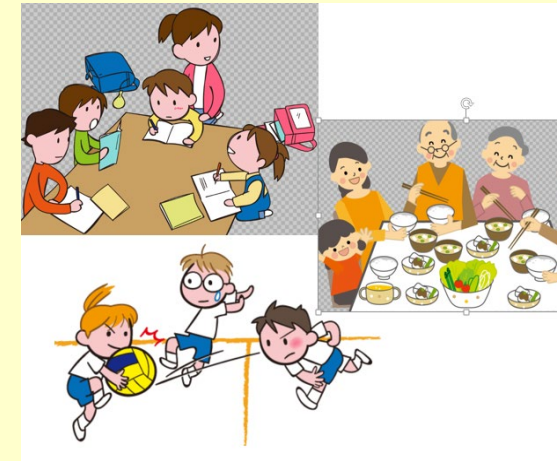
スクリーニングの仕組み＝データから自然に繋ぐ



予防

A

学校と専門機関の**連絡会1**
ケース会議へ



地域人材による支援（**自然に繋がる**）

ワンポイントによる
校内チーム支援

- ①児童相談所など専門機関での支援実行
- ②地域の子ども食堂、学習支援、家庭教育支援等を活用
- ③ポイントを決めた担任見守り

全数から気になる子の
発見へ；チームで
全教員によるスクリーニング

児童生徒理解・早期対応・支援の見える化のための
YOSS(大阪府大山野式スクリーニングシート)

©大阪府立大学山野研究室

【 年 月 日実施 】(月 月 分)

1学期 現状

表は学校独自項目(その他(青い列)に複数項目の追加可)。グレーは入力不要項目 <気になる(週1回程度)→1 特に気になる(週3回以上)>

年	組	氏名	学校適応・問題行動						学習		家庭状況		発達		健康		経済		福祉		管理職・指導																												
			①転入	②欠席日数 (年30日以上は 長期欠席・不登校)	③不登校期間あり (自認入力)	④遅刻・早退	⑤服装・身だしなみ	⑥言葉・身だしなみ	⑦学力	⑧授業中の様子	⑨持ち物	⑩家庭での様子	⑪家庭との関係	⑫その他()	⑬その他()	⑭成長	⑮健康(うち病歴)	⑯健康診断	⑰健康診断()	⑱健康診断()		⑲健康診断()	⑳健康診断()	㉑健康診断()	㉒健康診断()	㉓健康診断()	㉔健康診断()	㉕健康診断()	㉖健康診断()	㉗健康診断()	㉘健康診断()	㉙健康診断()	㉚健康診断()	㉛健康診断()	㉜健康診断()	㉝健康診断()	㉞健康診断()	㉟健康診断()	㊱健康診断()	㊲健康診断()	㊳健康診断()	㊴健康診断()	㊵健康診断()	㊶健康診断()	㊷健康診断()	㊸健康診断()	㊹健康診断()	㊺健康診断()	㊻健康診断()
1	1																																																
1	2																																																
1	3																																																
1	4																																																
1	5																																																
1	6																																																
1	7																																																
1	8																																																
1	9																																																
1	10																																																
1	11																																																
1	12																																																

自然とできる仕
組みが必要！

一次予防意識も醸成

データ蓄積、ITの活用

取り組みの評価

新刊のご案内

スクール ソーシャルワーク ハンドブック

実践・政策・研究

【編著】

インディアナ大学教授

キャロル・リッペイ・マサット

コロラド大学准教授

マイケル・S・ケリー

コロラド大学名誉教授

ロバート・コンスタブル

【監修】

大阪府立大学教授

山野則子

【監訳】

大阪府立大学大学非常勤講師

駒田安紀

東洋大学准教授

佐藤亜樹

愛知教育大学講師

厨子健一

武庫川女子大学教授

半羽利美佳

沖縄国際大学教授

比嘉昌哉

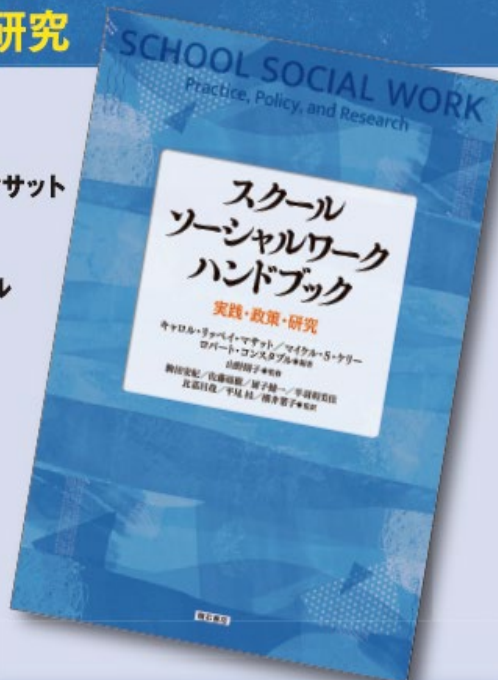
同志社大学非常勤講師

平尾 桂

帝徳大学准教授

横井葉子

明石書店



エビデンスに基づく実践だけでなく、学校組織や政策との関連、マクロ実践まで豊富な事例と内容から論じ、これからのソーシャルワークの実践と教育には欠かせない必読書。

■ B5判／上製カバー／640頁

■ 定価：本体20,000円（＋税）

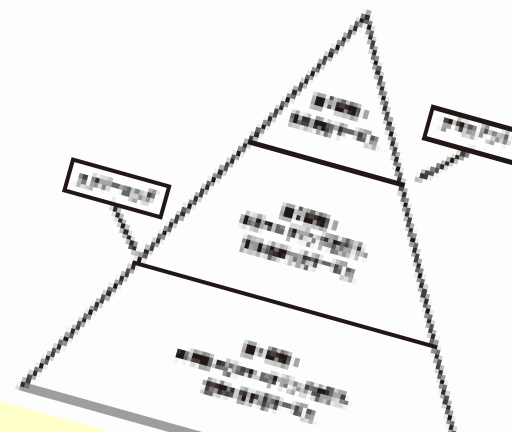
米
国
で
長
く
ス
ク
ー
ル
ソ
ー
シ
ャ
ル
ワ
ー
ク
の
た
め
の
不
朽
の
教
科
書
と
評
価
さ
れ
て
き
た
基
本
書
、
待
望
の
刊
行
！

16 適応行動のスクリーニングと アセスメント

リベラ・C・M・P. (Reber, C. M. P.)
カリフォルニア大学バークレー校
Child Health & Behavior Institute

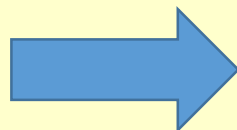
米)スクリーニング
の実績の記載

米)スクリーニング の実績の記載



「チーム学校」形成の1つの方法

個人の把握：
些細な懸念



組織共有：
些細な対応を明確に決定：定
例化

教師の同僚性：ちょっとした
工夫が参考になる！



その機能をもつツールが
“YOSS(ヨース)”

早期対応つながる

チーム会議に挙げる、ABC方向性を決める：重要＝YOSS®機能



SSWは必須、SSWやSCの機能が明確化される

YOSS®によるスクリーニングとは

®＝権利関係登録済
特許出願中

※関心を持たれた方は山
野研究室へご連絡をお願い
します。無断使用は認め
られていません。

データ：客観的に入力

議論：全ての子ども検討

拾い上げ：課題のある子ども

決定：支援の方向性

データ＋議論＋決定→チームが進み、教師の抱え込みが軽減するツールである！→さらなる展開へ

※YOSS=Yamano Osaka Screening System

取り組みの効果

補足表1. チーム会議にあげた人数の割合

	2018年度	2020年度	
	A自治体 (先進)	B市	C市(一般的)
総数	322	718	621
チーム会議にあげた人数	120	55	3
割合	37.3%	7.7%	0.5%
遅刻・早退の好転率	64.3%	19.0%	

スクリーニングからわかること

子ども食堂
など地域
につない
ただけで
不登校が3
分の1に
減少



A市の例

□ 個々の長欠日数の変化 (関西のある小学校)

	2016年度	2017年度
6年男児	欠席105日	欠席2日
2年男児	欠席92日	欠席3日
5年男児	欠席46日	欠席13日
4年女児	欠席191日	欠席98日
4年男児	出席26日	出席48日

□ 連続7日の長欠報告書の数

2016年度…年間92枚 (1か月あたり8.36枚)

↓

2017年度…年間30枚 (1か月あたり2.73枚)

長欠児童が激減
スクリーニングを活用した「チーム学校」の取り組みで

関西のある小学校で、1年間に30日以上学校を休む「長期欠席児童」が2016年度の19人から2017年度は10人になった。連続7日間休んだ場合に作成する「長欠報告書」も、年間92枚から30枚に減った—こんな「チーム学校」での活動成果が、文科省に伝えられた。大阪府立大学スクール・マネジメント学（SWM） 岡田 幸

2016年度に105日間欠席した小学6年の男児は、2017年度にわずか2日間の欠席だった。同じく92日間欠席した小学2年の男児は、3日に激減した。1年間に26日しか出席できなかった小学4年生の男児は、48日間出席できた。

欠席日数を減らせたのは、教職員、SSW・SCが連携して、家庭と学校とで



な議論が展開され、個人では見えなかった子どもの姿への気づきや発見が促されることだ。

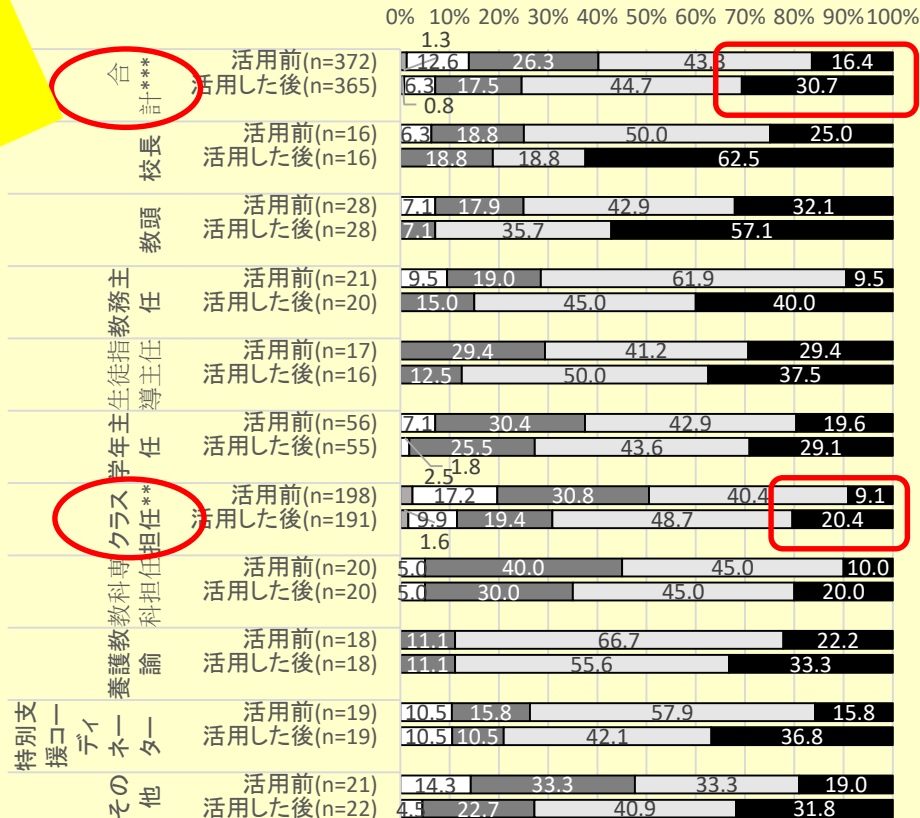
たとえば、子どもたちの様子について、次のような会話が出る。

「お母さんにいつもいいところを見せようとするから、学校ではしんどそう」「髪を束ねているかどうかで、母親が不在かどうかを見分けられるんですこいね」「具のないそうめんばかり食べているという子。こんな話、こんな場がないと言わなかった」—どれも「生

スクリーニング会議による議論UP、決定力UP

◇職種別に見た、会議の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒について意見をいう程度

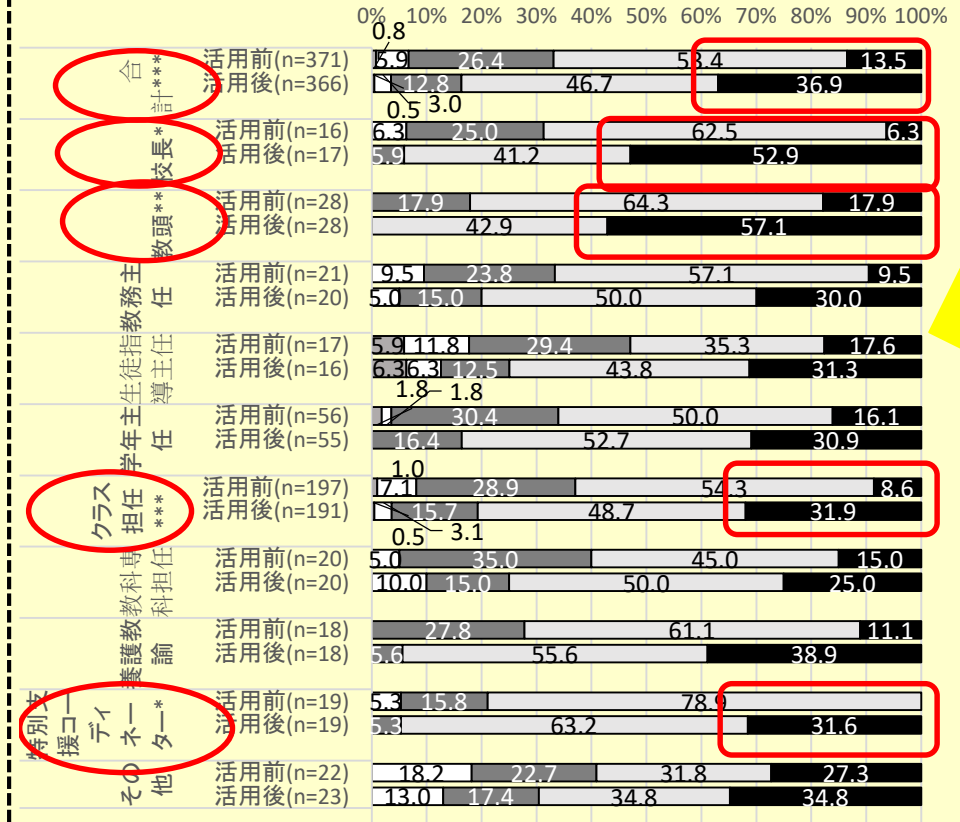
問3-①. 会議の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒について意見をいう



□ 全くあてはまらない[1点] □ あまりあてはまらない[2点] ■ どちらでもない [3点]
□ まあまああてはまる[4点] ■ おおいにあてはまる[5点]

◇職種別に見た、会議において児童への対応について具体的に決定する程度

問3-④. 会議において児童への対応について具体的に決定する



□ 全くあてはまらない[1点] □ あまりあてはまらない[2点] ■ どちらでもない [3点]
□ まあまああてはまる[4点] ■ おおいにあてはまる[5点]

- 全体では、YOSS活用前と比べ、活用後の方が、より児童生徒について意見を言ったり、児童への対応について具体的に決定したりするようになった。

チーム力UP

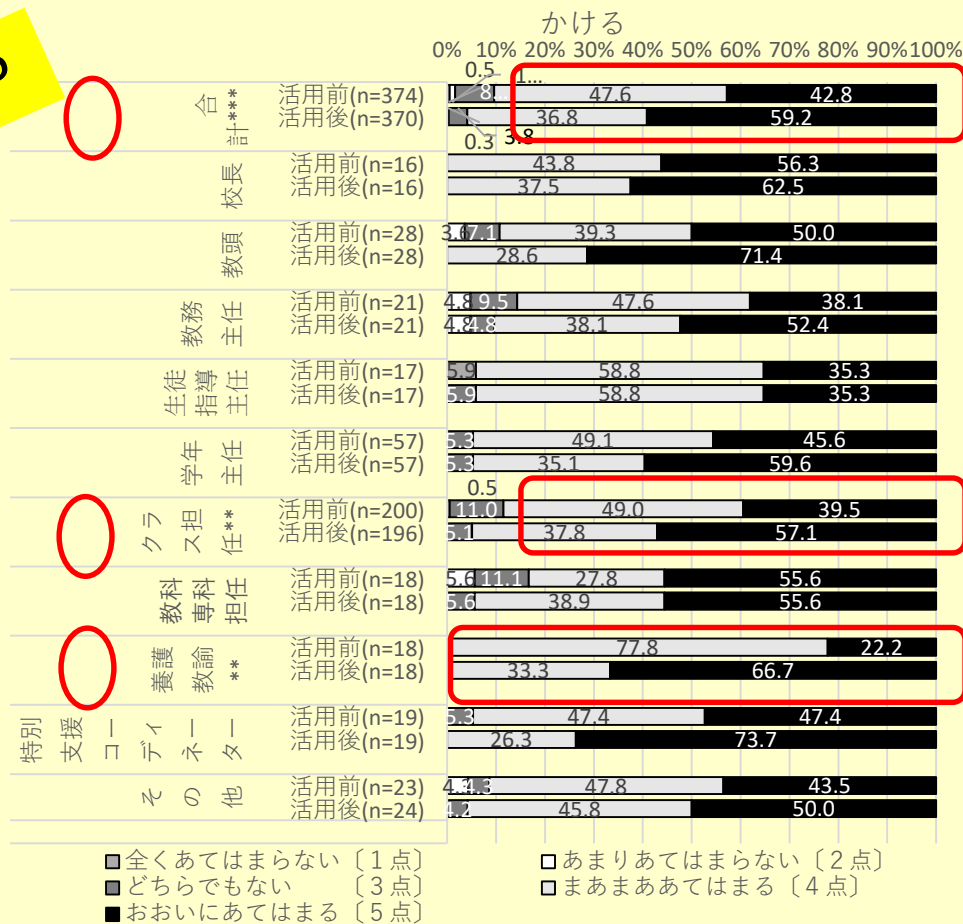
決定力UP

子どもの発見力UP！

スクリーニングによって教師の負担感は増加しない！

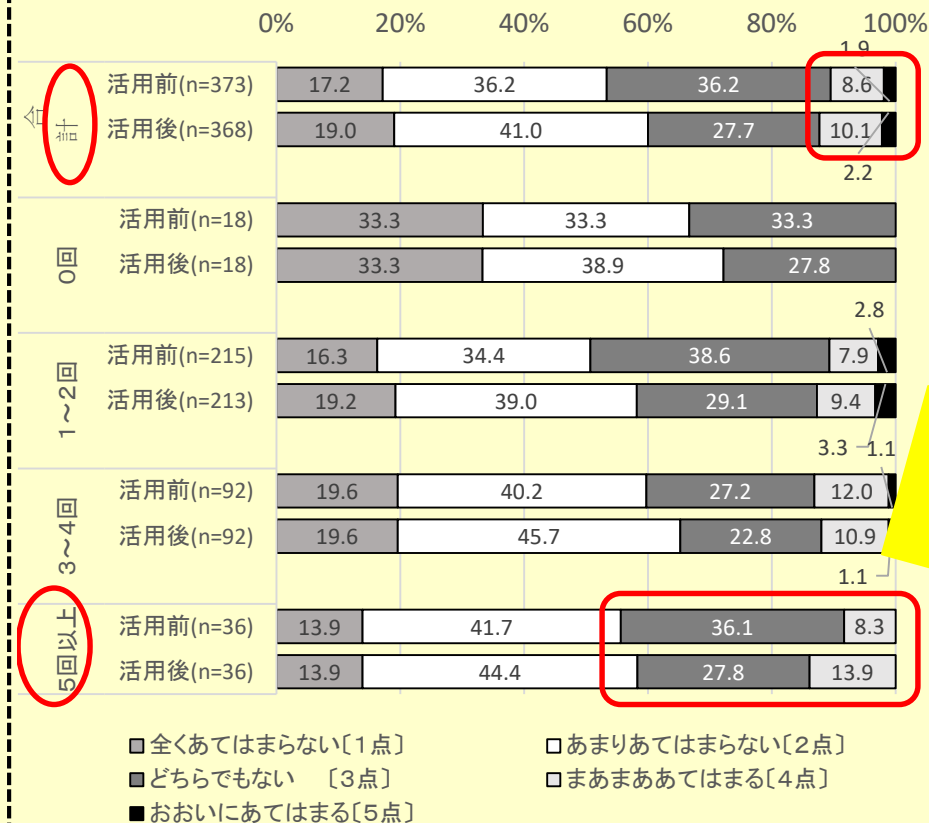
◇職種別に見た、複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける程度

問2-③. 複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける



◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、チームで決定することは負担である程度

問5-⑤. チームで決定することは負担である



負担感の増加なし

- スクリーニングによって家庭背景を見るようになり、回数に関わらず、YOSSの活用によって複数で集まって議論し決定することに教員の負担は増えたとは言えない。

課題

- 学校や教育委員会の抵抗→YOSSの使用でよさを獲得

教師に地域資源による支援が見えない→スクリーニング会議の導入

- 個人情報保護の課題→国の検討、今までのまとめ
- 教育委員会が担当者の異動で状況がすぐに変わる
→持続可能な組織を！評価キャパシティ形成

プロジェクトで達成する目標・取組事項

孤立・孤独・排除は見えない→すべての子どもの30%の気になる層を拾うことで予防を実現する



子どもの社会的孤立・孤独・排除を予防するシステム開発

【国】

教育と福祉のDB
スクリーニング実験

ビジョン

子どもに安心を提供できる、
持続可能な社会システムの実現

『神戸市・沖縄県ほか』

スクリーニング
実施契約

「学校」での展開

◆課題に対する目標

◆課題1:声をあげれない、気づかない→30%キャッチUP

◆課題2:教師の抱え込み→自然と形成される学校組織

◆課題3:必要な子どもに届かない→個人情報の壁、地域資源の無知

■スモールスタート期間

AIスクリーニングYOSS
モデルの完成

メカニズム
知る

介入評価

AI熟練
データ蓄積

スクリーニング進行人材
養成講座のモデル作り

自治体・学校・SSWへ
アプローチ方法／ネットワー
ク構築

個人情報保護のボトルネッ
ク対応マニュアル作成

■本格実施期間

AIスクリーニングYOSS
の検証と蓄積

スクリーニング:SSW養成講
座／教員講習モデル
実用化

プロセスモデルの試行と
自治体の評価キャパシティ
形成

個人情報保護のボトルネッ
ク対応マニュアル完成

実用化！

AI技術を用いた
スクリーニングシステム

を学校現場で運用する
ことにより、

子どもの社会的孤立を
システムティックに解消する

メカニズム理解と
社会像の描出

子どもの問題の潜在的段階から共有と議論がされ、子どものSOSとして認識、子ども理解が進み、1人もこぼさない社会

評価手法の開発

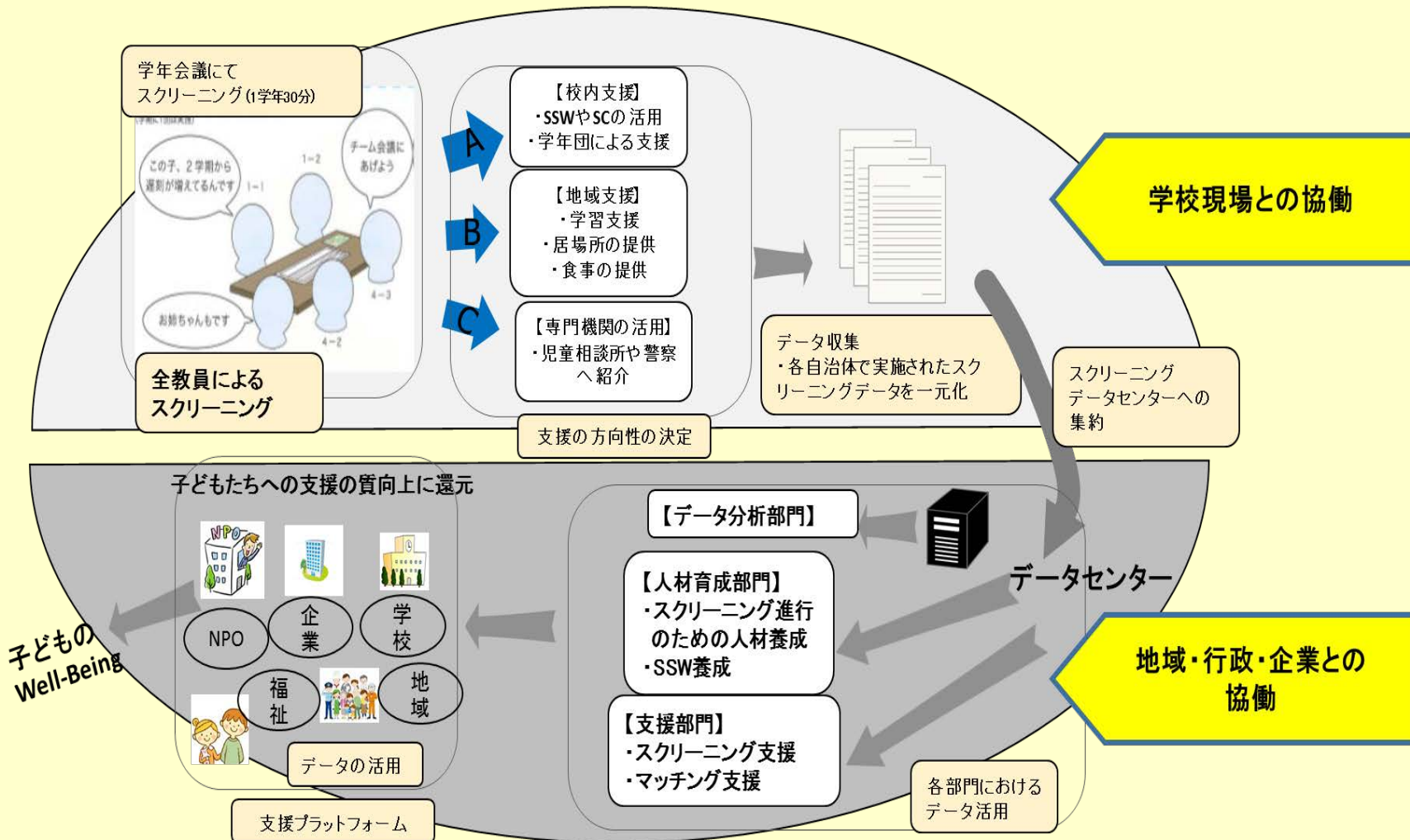
子どもの課題把握や支援策を検討するシステムを確立する。全体構造もすべて実施することでデータに基づく評価を開発。

予防する社会的仕組

理念系だけでなく、データに基づいて自動で流れる仕組みにすること、ネットワーク構築、養成講座の構築、マニュアル作成で確かな社会的仕組みとする

AI技術を用いたスクリーニングシステムの実現可能性

多様な関係者が協働する研究体制



- AI開発や情報セキュリティを専門とする研究者との**協働体制**

=これまでのプロジェクトにおいて**構築済み**

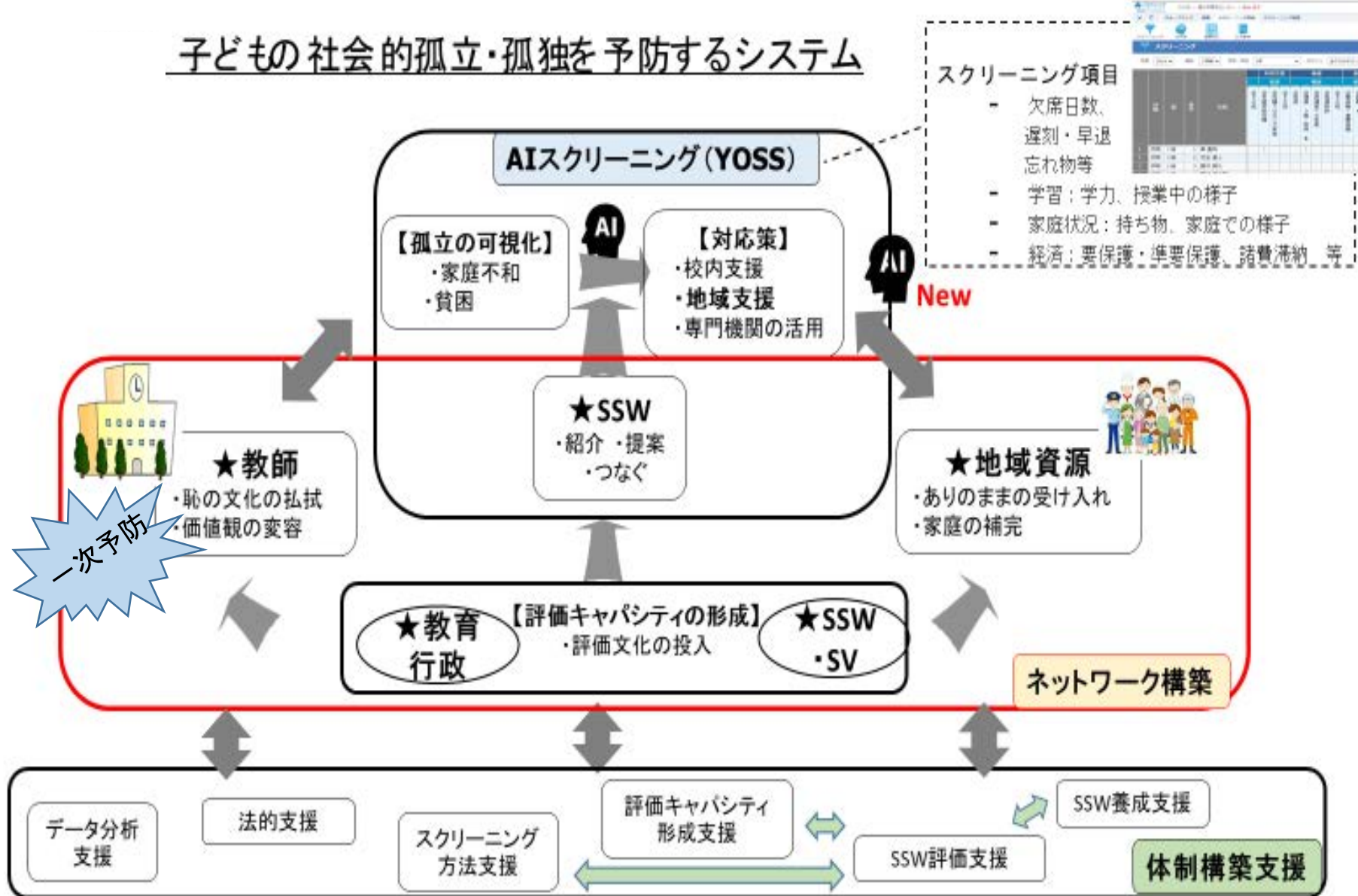
- スクリーニング研究に関してもすでに**複数の自治体(20)**と契約を結びデータ提供を受けている。
- スクリーニングの**モデル校**として始めている自治体において、すでにエクセルのスクリーニングの**試行**を学校や自治体と話し合いながら進めている。

→新たに**AIスクリーニングYOSS**を実施する基盤は形成されている

→課題も明らかになりつつあり、**社会システムの開発が必須**

子どもの社会的孤立・孤独を予防する新たなシステム構築

子どもの社会的孤立・孤独を予防するシステム



単なるAIシステムの開発でなく
社会システムの開発研究

AIスクリーニングYOSSの開発

地域資源活用などの方向性
を予見するAIシステムとなる

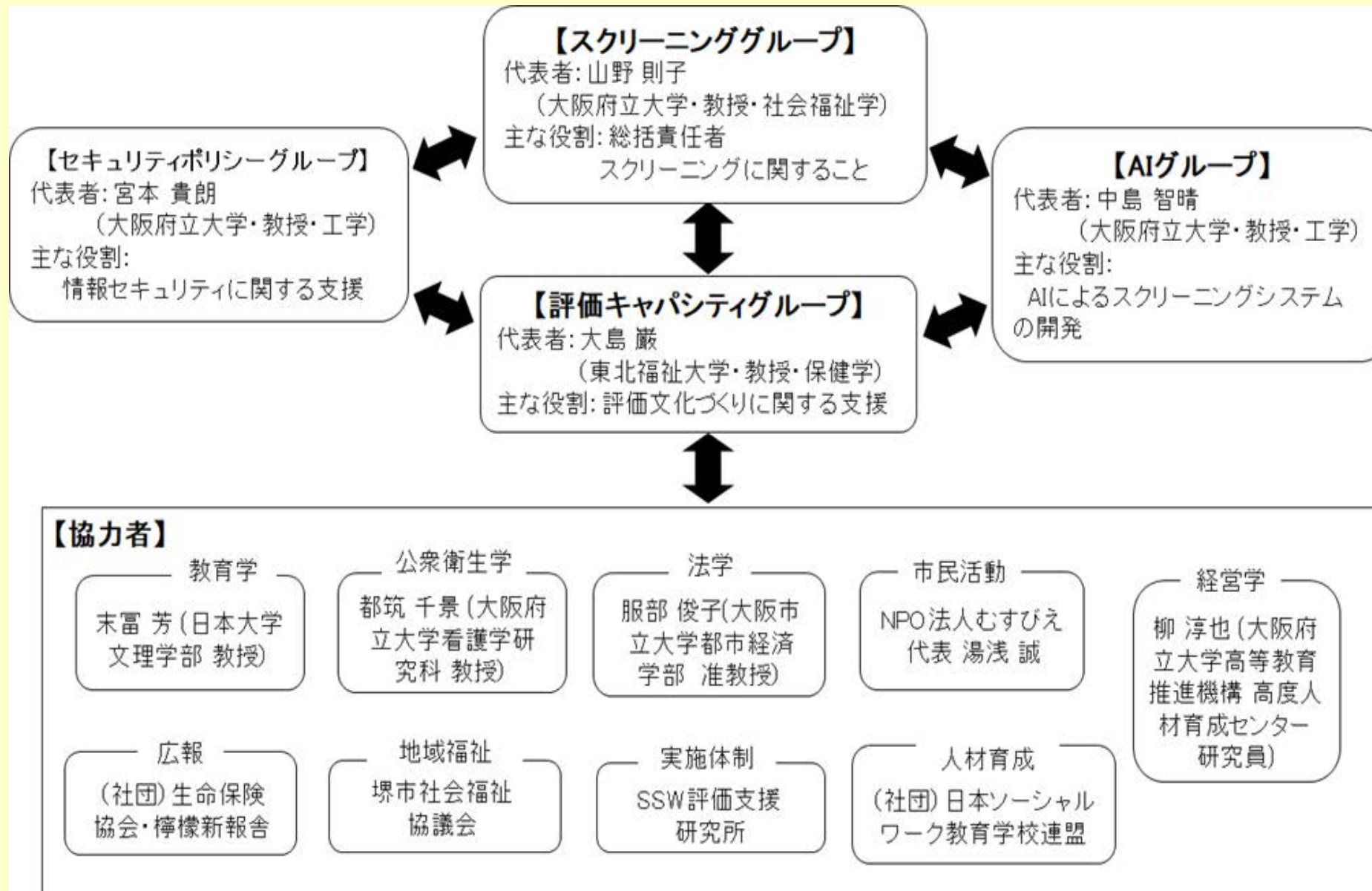
地域含むネットワーク構築

実現させるためにステイクホルダーのネットワーク構築
(評価キャパシティ形成となり
持続可能性高まる)

法的含む体制構築支援

人材養成、法的マニュアル作成などバックアップする体制
構築の支援を行う

研究開発体制



- AI研究者、情報セキュリティ研究者とすでに、スクリーニング作成における個人情報への懸念などに関する**話し合いを実施**してきた。
 - 法学研究者、ネットワークのデザインができる研究者、教育学者、評価学者、公衆衛生、公共政策など**多様な専門性の人材**を集めた。
- 議論も行いつつあり、実行可能性は高い。

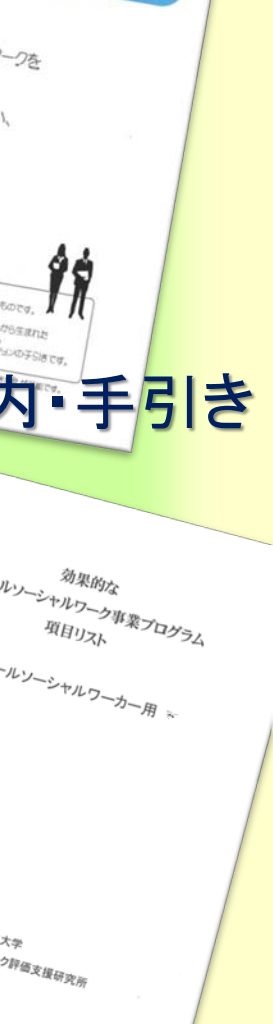
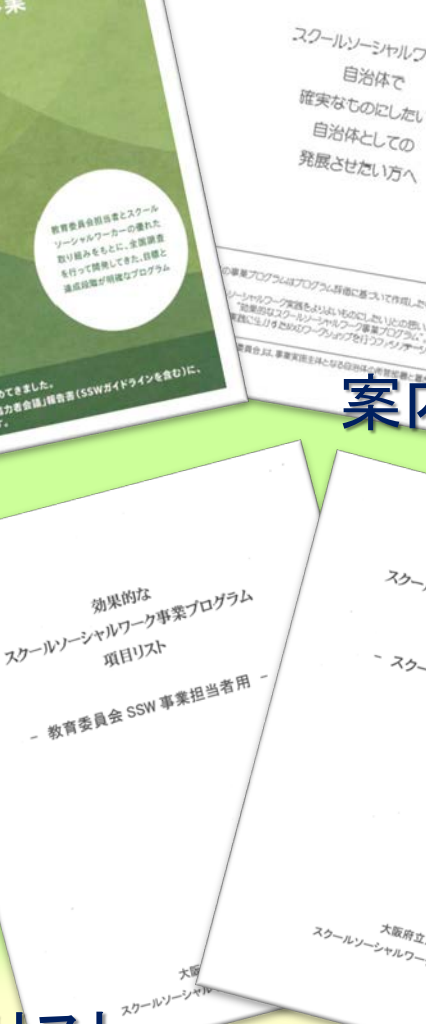
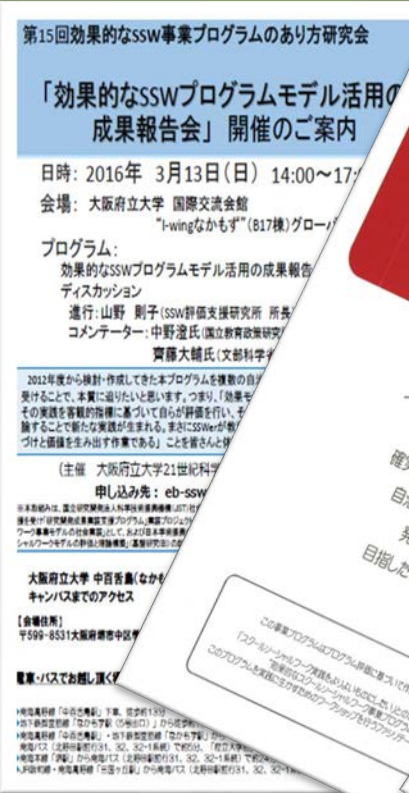
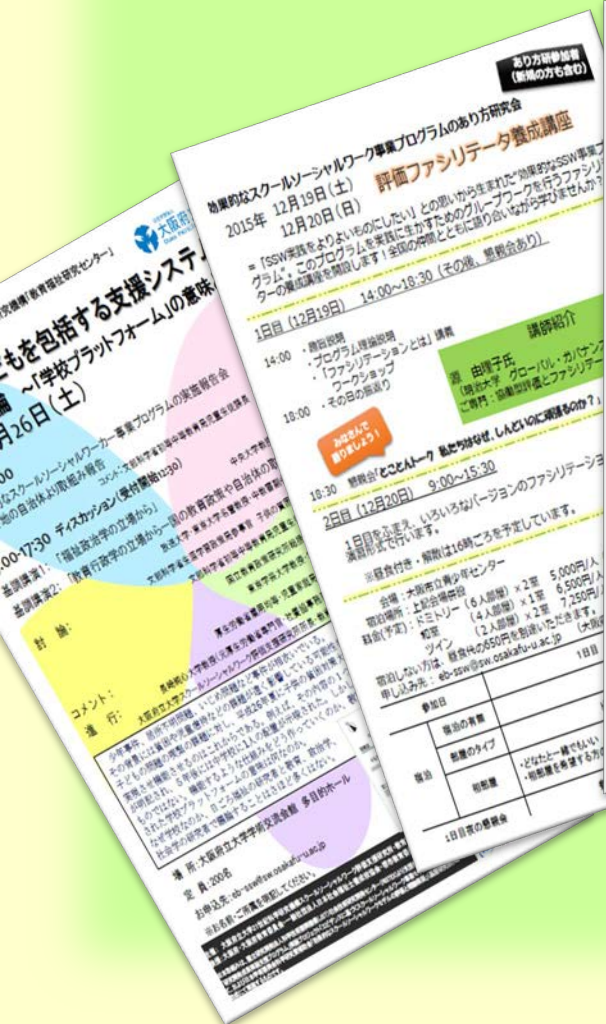
養成講座へ：各自治体の実践参画型ワークショップの様子

「効果的なSSWer事業プログラム」と合わせて切れ目のないシステムの提案を行い、新しく参入する自治体を歓迎し、拡大していくことが可能となった。



平成27年度・28年度の成果物

研究会の宣伝・プログラムの手引き・報告書



案内・手引き

注：文部科学省委託調査「いじめ対策等生徒指導推進事業」の予算

項目リスト

平成27年度：
イリノイの研究者を国際シンポジウムへ招待し、
日本で意見交換を行う。

2018年1月24日
会場：大阪府立大学中西芸芸キャンパス 学術交流会館
大阪府堺市中区学園町1番1号

イリノイのスクールソーシャルワークに学ぶ
エビデンスベーストプラクティスの実践

日時 平成28年1月24日(日)
14:00~17:30(受付:13:30~)

会場 大阪府立大学中西芸芸キャンパス 学術交流会館
大阪府堺市中区学園町1番1号

イリノイ州では、日本よりも100年ほど早くスクールソーシャルワーク事業を開始しました。スクールソーシャルワーカーの業務だけでなく、行政との関わりについて、先進的な取り組みを紹介します。

プログラム
講 義 「EBP(エビデンス・ベースト・プラクティス)の実践、SEL(ソーシャル・エモーショナル・ラーニング)の展開」
イリノイ大学シカゴ校ジェーン・アダムス社会事業学部
アネット・ジョンソン氏、カサンドラ・マッキー氏

ディスカッション
主 催 大阪府立大学教育福祉学部 教授 山野則子

参加費 無料 定員 200名(先着順・要事前申込)

対象者 教育委員会の方、スクールソーシャルワーカー、学生、
教育関係者など

申込方法 メールまたはFAX (詳細は裏面記載)
※定員に達した場合は申し込みの受付を中止させていただきます。参加の申し込みは、必ずしも必要ありません。ご了承ください。

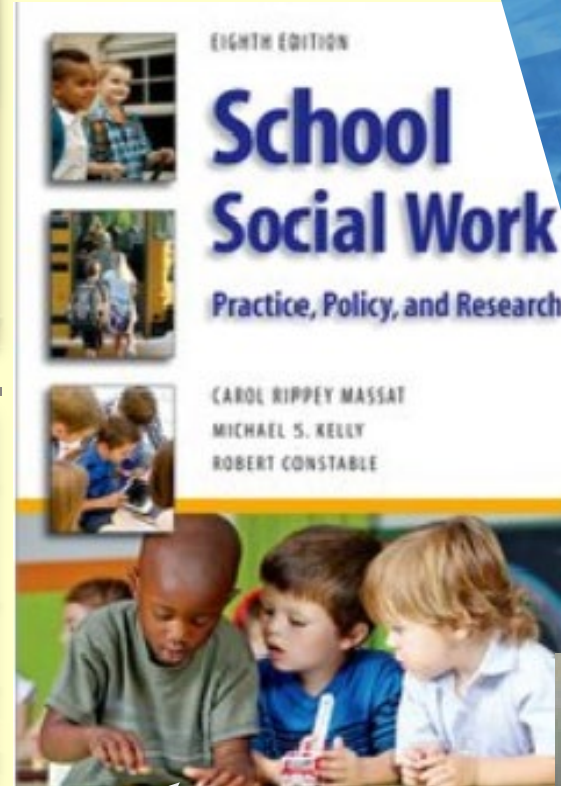
アネット・ジョンソン氏
イリノイ大学シカゴ校
ジェーン・アダムス社会事業学部
教授(分野: ソーシャルワーク実践)
研究分野: 学校社会

カサンドラ・マッキー氏
イリノイ大学シカゴ校
ジェーン・アダムス社会事業学部
教授(分野: ソーシャルワーク実践)
研究分野: スクールソーシャルワークと教育政策



平成24年、平成26年
イリノイ大学で発表

平成27年度より、
翻訳を開始



2021.3出版記念
交際シンポ

キャロル・リッペイ・マサット教授 (インディアナ大学)



マイケル・S・ケリー教授 (ロラ大学)



山野則子教授 (大阪府立大学)



このPJで展開:スクリーニングの社会実装

研究活動・自治体からの委託

国からの受託・委員

国へのアクションと結果

2018

2019

2020

2021

③スクリーニングYOSSの開発

<受託研究>

・能勢町子どもの貧困対策強化促進事業

<科研>

・子どもの課題発見から支援までのスクリーニングの開発

・20自治体・学校が府大と契約を結び実証実験中

スクリーニングYOSSの効果

社会課題:コロナによる影響への政策
=スクリーニングYOSSへの期待

・AIモデル作成、検討中

<委員>

・厚生労働省 社会保障審議会児童部会委員

<委員>

・文部科学省 不登校に関する調査研究協力者会議ワーキングチーム

<委員>

・文部科学省「学びを通じたステップアップ支援促進事業」審査委員会
・厚生労働省「子ども・子育て支援推進調査研究事業」企画評価委員会
・厚生労働省「厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業」評価委員

<文部科学省受託研究>

・スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究

<内閣府委託>

・沖縄子供の貧困緊急対策事業分析・評価・普及事業(2017~)

<厚生労働省特別研究>

・コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究

<委員>

・内閣府「貧困状態の子供の支援のための教育・福祉等データベースの構築等に向けた研究会」座長

国会厚生労働委員会:野田市事件からYOSSスクリーニングを答弁に活用(2019.5)

文科省:学校・教育委員会等向け虐待対応の手引きにスクリーニング掲載(2019.5)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1416474.htm

文科省:スクリーニング含む報告書作成

文科省:スクリーニングガイド作成依頼
文科省HPにアップ(山野研作成)

文科省:スクリーニングを推奨する通知文が出される(2020.3&5)

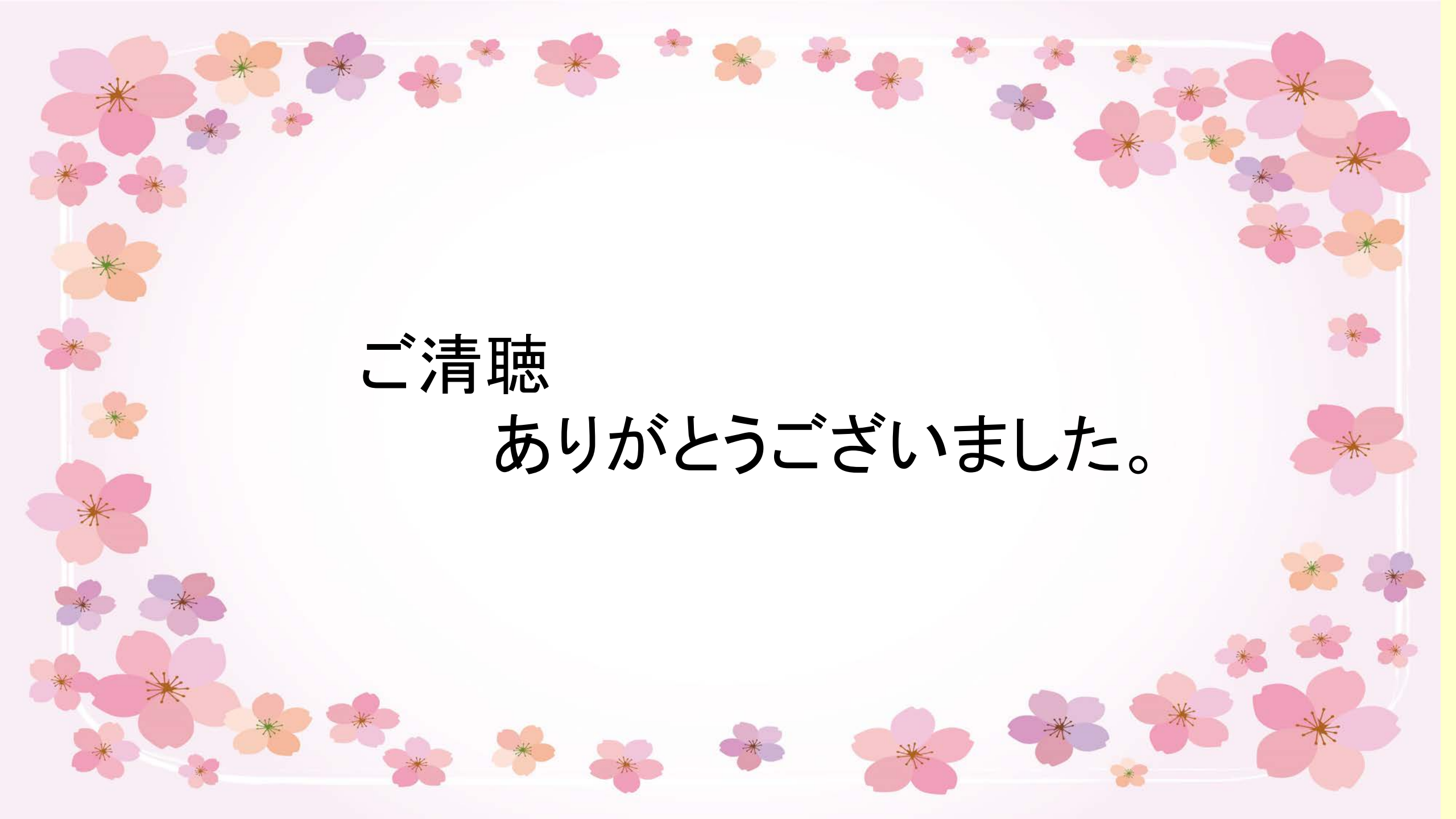
山野:参議院議員骨太の方針の勉強会に招聘(2020.3)

NHKで取り上げられる



文科省:スクリーニングを実証実験として全国に公募→国が実証実験開始(YOSS利用)

デジタル庁:来年度モデル実施へ(予定)



ご清聴
ありがとうございました。